

法面後背地からの流水、切土法面の湧水による侵食の防止に！ 「FM式ドレンかご工法」

「富士FM式ドレンかご工法」は、**法面の表面排水、湧水処理を目的とした緑化が可能な法面保護工**です。工場においてパネル化した籠を組立て法面に敷設し碎石を充填、侵食が想定される法面全体に碎石層を設け、法表面に流れる表面水や、切土法面に露出する水脈より浸出する湧水を、ドレンかごで構築された碎石層により面的に受け、効率的かつ永続的に排水処理を可能とした工法です。

◎ 特徴

- 1) 法面後背地からの流水や切土法面の湧水処理に抜群の威力を発揮します。
法面の湧水処理は、従来有孔管等を網目状に埋設する等、線のな導水処理が主流ですが、ドレンかご工法は、碎石層を法表面に構築するため、面的な導水処理が可能です。また、積雪寒冷地における融雪水による法面侵食に対しても有効です。
- 2) 緑化が可能な法面保護工法です。
籠内に、碎石層－客土層－張芝の順に積層することにより短期間に緑化が可能であり、確実に湧水を処理できる法面保護工法です。また、かごの構成部材である金網は菱形金網を使用しているため、その特性上、5～10cm厚の客土の定着が良く、植生基材等の吹付けによる緑化が可能です。
- 3) ボックス型の採用により、整形法面への定着が抜群です。
菱形金網で製作された籠の性質上、敷設箇所の地盤の変動に対し柔軟に追従し、被災範囲の拡大を防止・抑制できます。
- 4) 中詰材として碎石を使用するため、素材が安価、詰石施工に重機が多用でき、特殊機材、技能が不要な工法です。
- 5) 基本材質にフロン籠工法で実績のある、JIS-G-3547 第3種亜鉛メッキ鉄線を使用。
耐久性を望まれる布設条件においては、亜鉛アルミ合金メッキ鉄線、厚メッキ線等、高耐久線材での製作も可能です。

施工事例

<p>布設断面図 (張芝緑化)</p>	<p>布設断面図 (一般湧水処理)</p>
<p>規格：φ3.2×50 300×1000×2000 碎石t200mm、客土t70mm、張芝30mm 施工後 5ヶ月経過 (冬季施工)</p>	<p>規格：φ3.2×50 250×1000×2000 湧水対策によりドレンかご施工後 吹付もしくは客土 施工後 約25年経過 周辺草種が繁茂</p>

■ 製造・販売元



富士金網製造株式会社

URL: <http://business2.plala.or.jp/fuji-gmo>

『共存・共生そして未来へ！』

日本工業規格 JIS A 5513 JIS G 3551 表示認定工場

■ 本社・工場

〒080-2464

北海道帯広市西24条北1丁目

TEL. 0155-37-2135 FAX. 0155-37-6779

■ 札幌 支店

〒001-0032

北海道札幌市北区北32条西3丁目277-102

第2佐々木ビル2階

TEL. 011-717-3388 FAX. 011-717-3876